

事務事業名	ふるさと天文館運営管理事業 ☐ 実施計画事業		所属部局	教育委員会		単位番号	12366					
			所属課室	生涯学習課		課長名	新津 岳					
			所属担当	生涯学習担当		担当者名	小野晃利					
基本政策	基本計画体系	V 個性と文化を育む都市づくり	予算科目	会計	名称	款	項	目	細目	細々目		
				01	一般	1	0	0	4	0	3	1
政策	22	生涯学習ネットワークの整備充実	事業区分	☐ 国の制度による義務的事業 ☐ 施設等維持管理事業								
施策	35	生涯学習システムの推進		☐ 県の制度による義務的事業 ☐ 補助金交付事業								
				☐ 市の制度による義務的事業 ☒ その他の事業 ☐ 義務化されている協議会等の負担金								
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 年度) 年度) ☐ 期間限定複数年度 (年度) 年度)		法令根拠	南アルプス市ふるさと天文館条例								
事務事業の概要	事業の内容・・・期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載 天体観測機器と展示スペースを備えた施設の維持管理並びに観望会の開催事業。 【維持管理】消耗品交換、天体観測機器保守点検等。 【観望会】年末年始を除く毎週土曜日夜開催。ボランティアグループによる運営。50cmの望遠鏡を使った天体の解説。時宜にあった星座、天文現象等の解説。			事業費の主な内訳 (22年度)								
				項目(細節)		金額(千円)		項目(細節)		金額(千円)		
				消耗品費	10		使用料	50				
				燃料費	3							
				修繕料	124							
				施設維持管理委託料	329							
				設備維持管理委託料	430		計	946				

1 現状把握(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 活動	
22年度活動実績	天体観望会が開催できるよう施設を維持管理する。
23年度活動予定	天体観望会が開催できるよう施設を維持管理する。
② 対象(この事務事業は誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	
市民 施設	
③ 意図(この事務事業により対象をどのような状態にしていけるのか、どのように変えるのか)	
施設がいつも不都合なく利用できる状態になっており、観望会等の開催に支障をきたさないようになる。	
④ 上位目的(どのような結果に結び付けるのか)	
観望会を開催することにより市民が科学(宇宙)に興味を持ってもらう。	

⇒ ⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 観望会の開催数	回数
イ 維持管理施設数	
ウ	
⇒ ⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 参加者数	人数
イ 施設数	箇所
ウ	
⇒ ⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 観望会参加者数	人数
イ 施設の修繕数	箇所
ウ	
⇒ ⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 施設・事業がすばらしいと感じる人の割合	%
イ	

(2) 事業費・指標の推移			単位	21年度 (決算・実績)	22年度 (決算見込・実績)	23年度 (予算・目標)	24年度 (次年度計画・目標)	25年度 (計画・目標)	26年度 (計画・目標)	最終 年度 (トータルコスト・目標)
年間 トータル コスト	事業費	国庫支出金	千円							
		県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		一般財源	千円	974	946	872	735	872	872	
	事業費計 (A)		千円	974	946	872	735	872	872	0
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1	1	
		延べ業務時間	時間	20	20	20	20	20	20	
		人件費計 (B)	千円	89	89	79	79	79	79	0
		(A)+(B)		千円	1,063	1,035	951	814	951	951
活動指標		アイ	回数	54.0	52.0	52.0	52.0	52.0	52.0	
		ウ								
対象指標		アイ	人数	503.0	500.0	500.0	500.0	500.0	500.0	
		箇所	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	
成果指標		アイ	人数	503.0	500.0	500.0	500.0	500.0	500.0	
		箇所	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	
上位成果指標		アイ	%	17.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	

(3)この事務事業を取り巻く状況(対象者・社会状況等)の変化、市民意見等

① この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか？	平成7年の施設開館以来、地域の文化振興やコミュニティ作りに寄与するため開始された。
② 事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか？また、今後の予測は？	施設開館当初は、複合施設の一部的な位置付けだったが、隣接の温泉施設や資料館施設がそれぞれ独自管理となる中で、本事業も単独の事業と位置付けられている。
③ 事務事業に対して関係者(市民、事業対象者、議会等)からどんな意見・要望が寄せられているか？	特になし

(4) 改革改善の取り組み状況

① 改革改善の取り組み実施は？	☐ 取り組みしている ⇒【内容！】 ☒ 取り組みしていない ⇒【理由！】
② これまでの改革改善の取り組み状況・経過(取り組みしていない場合はその理由)	平成21年度に、それまで1名体制だった運営ボランティアを見直し、新たに協力を得られるボランティアを募り、複数ボランティア体制として事業への協力を依頼し、安定的に観望会を実施できるようになった。
③ H 22年度に実施した改革改善の内容	ボランティアに任意団体の設立を呼びかけ、H22年度から天文館運営協会の団体として事業に協力を得られることとなり、さらに安定した観望会が実施できている。

事務事業名	ふるさと天文館運営管理事業	所属部	教育委員会	所属課	生涯学習課
-------	---------------	-----	-------	-----	-------

2 評価(Check1)担当者による事後評価(複数年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？意図が上位目的に結びついているか？	☐ 結びついていない(見直し余地がある) ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由↓】 ふるさと天文館の維持管理を行い、市民に安全で快適な施設で観望会等の事業に参加していただくことは、“生涯学習ネットワークの整備充実”に結びつく。	
	②公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？民間やNPOに委ねることは可能か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由↓】 指定管理者制度や民間、NPO委託等を含めて検討が必要である。	
	③維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 適切である ⇒【理由↓】 施設管理においてはやむを得ない修繕は必ず発生するが、先を見越した修繕計画等を作成することで、長期的な視点での修繕箇所、回数、総費用を抑制できる可能性がある。	
有効性 評価	④成果の向上余地 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 向上余地がない ⇒【理由↓】 施設管理においてはやむを得ない修繕は必ず発生するが、先を見越した修繕計画等を作成することで、長期的な視点での修繕箇所、回数、総費用を抑制できる可能性がある。	
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることはできるか？	☐ 類似事務事業がある ⇒(類似する事務事業の名称を記入↓) ☐ 統合・連携ができる ⇒【理由と具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 統合・連携ができない ⇒【理由↓】 ☒ 類似事務事業がない	
	⑥休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	☐ 影響なし ☒ 影響あり ⇒【理由と影響の内容↓】 ソフト事業が定着してきた感があり、運営ボランティア、事業参加者のコミュニティ活動が停滞する。 ☐ 休止・廃止ができる ☒ 休止・廃止できない ⇒【理由↓】 事業参加者数・来館者数は増加傾向であり、現段階での休止・廃止はしにくい。	
効率性 評価	⑦事業費の削減余地 成果を下げずに事業費(コスト)を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 シルバー人材センターの活用や、ボランティアに最低限の費用で運営管理を委託するなど管理コストは最小限に抑えている。	
	⑧人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？(事業のやり方の方の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 施設管理において職員の関与は最低限としており、これ以上の事業費削減は難しいと思われる。	
公平性 評価	⑨受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由↓】 貸し会議室等のように広く市民に開放する性質の施設ではないが、希望者が誰でも参加可能な観望会事業を開催していることから適正である。	

3 評価(Check2)担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括(事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	公共関与の妥当性については、この施設は実質的にボランティアによる運営が行われているものであり、施設維持管理費用を担当課で出しているだけである。施設維持管理はこの施設が無くなり限りの発生するものである。そのため目的妥当性については特に考慮しない今後の方向性とする。また成果の向上余地については記述とは別の観点から、施設の存在をアピールする事によりより大きな集客を検討するものである。ただし自然を対象としているため、天候によって集客数は大きく左右される面は仕方がないことである。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性(Check1の結果から定める)・・・複数選択可	(3) 改革・改善による方向性																					
☐ 廃止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 事業統合・連携(有効性⑤の結果) ☐ 公平性改善(公平性⑨の結果) ☐ 休止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 成果向上(有効性④の結果) ☒ 現状維持(全評価項目で適切) ☐ 必要性検討(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ コスト削減(効率性⑦、⑧の結果)	<table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト水準</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果水準</th> <th>向上</th> <td>☐</td> <td>☐</td> <td>☐</td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td>☐</td> <td>☒</td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td>☐</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> ※ 廃止・休止の場合は記入不要			コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	☐	☐	☐	維持	☐	☒		低下	☐		
				コスト水準																		
		削減	維持	増加																		
成果水準	向上	☐	☐	☐																		
	維持	☐	☒																			
	低下	☐																				
(2) 改革改善案について																						
① 天文館の存在をアピールする手段の確立(HP、広報、天文専門雑誌での紹介等) ② ③																						
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策	(5) 事務事業優先度評価結果																					
① ボランティアの方々との意思疎通を行う ② 週末に晴天になりますように・・・ ③	<table border="1"> <tr> <td>成果優先度評価結果</td> <td>⑦</td> </tr> <tr> <td>コスト削減優先度評価結果</td> <td>⑥</td> </tr> </table>	成果優先度評価結果	⑦	コスト削減優先度評価結果	⑥																	
成果優先度評価結果	⑦																					
コスト削減優先度評価結果	⑥																					